

## 第2学年国語科学習指導案

### 1 単元名 友だちに分かるように話そう「あったらいいなこんなもの」

#### 2 指導観

- 本学年の子どもたちは、1学期の「話すこと・聞くこと」単元の「とも子さんはどこかな」において今から何について話すかはっきりさせること、大事なことを落とさないで話すことについて学習した。その中で、聞き手によく分かるような話し方の練習や声の大きさ・速さを考えながら話す練習をしてきた。また、話し手を見てうなずきながら最後まで聞いたり、大事なことを落とさずに聞いたりする練習もしてきた。

この学習を生かして、国語科に限らず他教科や他領域でも話し方・聞き方の練習をしているところである。子どもたちの「話すこと・聞くこと」に対する意識を知るために、アンケート調査をした。以下はその結果と考察である。

- ① 「進んで話せますか」という質問に、合わせて81%の子どもたちが「とてもできる」「だいたいできる」と答えているが、残りの19%の子どもたちが「あまりできない」「できない」と答えている。その理由として「何を言っているかわからない」「言い方がわからない」「恥ずかしい」と答えている。このことから、話す経験を増やしたり、話し方の練習を繰り返したりしながら、話すことへの自信をもたせていく必要があると考える。
- ② 聞き方の態度面について、「話し手を見ながら聞く」「うなずきながら聞く」についてはどれも80~90%の子どもたちが「とてもできる」「だいたいできる」と答えている。4月当初と比べると、常時活動なども含めて指導をしてきた成果が表れてきたと考えられる。しかし、個人差も大きく聞き方が十分身に付いているとは言いにくい。今後も引き続き聞き方の指導に取り組んでいく必要があると考える。
- ③ 「自分の考えと比べながら聞く」「進んで質問する」「賛成や反対の意見を言える」については、80%が「とてもできる」「だいたいできる」と答えている。しかし、教師からの視点で見ると、まだ十分できているとは考えられない。そこで、自分の考えと比べながら話を聞くこと、進んで質問したり、賛成や反対の意見を言ったりすることを、基本的な「話し方・聞き方」の指導と合わせて、質問や意見の言い方の練習を取り入れながら指導していく必要があると考えている。

日常では、「声のものさし」や「聞き方・話し方名人」の掲示物を、声が小さい子や発表の仕方が不十分な子への手立てとして活用してきた。このことにより、声の大きさを意識して発表しようとする子どもの姿も見られるようになってきた。音読タイムでは、口の形に気を付けながら音読の練習をしたり、友達と聞き合いながらよさを見つけ合ったりしてきた。このことにより、音読の楽しさを味わったり声を出すことへの抵抗が少なくなったりしている子どもの姿も見られるようになってきた。

- 本単元は、子どもが「あったらいいな」と思う「ひみつどうぐ」について、楽しく想像し、話す順序を考えながら聞き手に分かるように話したり、話題に沿って話し合ったり最後まで大事なことを落とさずに聞いたりすることができるようになることをねらいとしている。

そのために、楽しく想像した「ひみつどうぐ」について、それがどんなものか、ほしい理由は何かなどをペアで対話したり、聞き手に分かるように発表するための練習をペアやグループで行わせたりしていく。その中で聞き手と話し手の両方を体験させ、質問をしたり、質問に答えたり句意見や感想を言ったりする対話や話し合いを繰り返して行わせることを通して、聞き手を意識した話し方ができるとともに、考えを深めたり、分かりやすく発表したりすることができる。と考える。

このように、本単元で設定するペアでの対話やグループでの話し合いをさせることは、相手を意識しながら、「話すこと・聞くこと」の技能を高めるために価値がある。と考える。

- 本単元の指導にあたって、「つかむ」段階では「ひみつどうぐ」について、自分も考えてみたいという意欲付けのために、ドラえもんのビデオを単元の導入として視聴させる。そして、ドラえもんの道具の中で、好きなものや、いいなと思うものについて発表させる。そのあと、自分だったらどんなものがあったらいいか時間を十分とって考えさせる。その際、ドラえもんの道具にとらわれず、自分や家族が使う上で、あったら便利だな、助かるなと思うものにはどんなものがあるかを考えさせる。

そして、その中から一番「あったらいいな」と思うものはどれにするか決めて、「ひみつどうぐ」のイメージを具体的にさせるために、ワークシートに、絵や文を脅かせる。

次に、「伝え合う段階」では、自分が決めた「ひみつどうぐ」について友達と対話しながら、自分の考えをふくらませていく。そのために、対話の仕方が分かるモデルを提示し、「話し手」は「聞き手」のことを考えて、分かりやすく話そうとする意識を持たせて話させたり、「聞き手」は、「共感する」「感想を言う」「アドバイスをする」など、「話し手」の考えを受け止めて聞いたり、分からないことは質問したりする体験を、ペアで繰り返し練習をさせていく。その際、うまくできている子どものモデルを練習の途中に提示し、自分達の活動をふり返らせる。そして、対話をしていく中で、自分の「ひみつどうぐ」の内容をくわしくしていき、そのことを付箋紙に書いてワークシートに付け加えさせる。それをもとにして、内容やまとまりごとに話す順番を整理させていく。そのあと、全体への発表の仕方のモデル提示をして、聞き手に分かりやすい発表のしかたをペアで練習させた後、4人組で、発表者に感想を言ったり質問したりする練習を繰り返し取り組ませる。

そして「いかす段階」では、これまでの活動を生かしながらクラスで発表会を開き、質問・意見・感想の交流も行っていくことで、自分の伸びを実感したり友達のよさを確認したりする場としたい。

こんなモデル・提示の仕方

○ ビデオによるモデル提示

活動のねらいをつかむために活用したり、スモールステップで正しい話し方や発表中の姿勢などを、映像を通して確認したりするために活用する。

○ 子どもたちの演示によるモデル提示、

練習の途中で提示することで、話し方や聞き方のどこがいいのか確認し自分の活動をふり返ることで、自分の話し方や聞き方を修正したり、より意欲を持って練習したりするために活用する。

○ CDによるモデル提示

音声だけのモデルにすることで、その内容に集中させるために活用する。

### 3 単元目渇

- 「あったらいいな」と思うものを楽しく伝えたり、興味をもって聞いたりしようことができる。
- 「あったらいいな」と思うものの名前や様子、理由などについて、話す順序を考えながら、ゆっくり、はっきりと話すことができる。
- ものの名前や使い方、理由など、大事なことを落とさずに最後まで聞くことができる。
- 話し合いを通して、分からないことについて質問したり、分かりやすく答えたりすることができる。

## 5 本時 (5/14)

### 6 本時の目標

- ペアでの対話を通して、自分が考えた、あったらいいなと思うものと、その理由を話すことができる。
- モデルを見て、よりよい対話の仕方を理解し、話を聞く時にうなずいたり、共感する言葉を返したりしながら聞くことができる。

### 7 本時指導の考え方

本時は「ひみつどうぐ」を紹介し合う対話の中で、友達の話に共感しながら最後まで聞くことを目標としている。

前時までに子どもたちは、ドラえもののビデオを視聴して便利な道具がたくさんあることを知り、自分はどんな道具がほしいかを自由に考えている。そしてその中から、一番自分にとって必要性があり役に立つものをひとつ決めている。しかし、自分が考えただけではアイデアがふくらまなかったり、考えが固まらなかったりすることが考えられる。前時には、自分の「ひみつどうぐ」とほしい理由がはっきり言えるようになることをめあてとして、ペアになって友達に聞いてもらっている。しかし、聞き手はどんな聞き方をしたらいいかがはっきり分かっておらず、最後までしっかり聞くことができていないことが考えられる。

そのために本時は、考えをふくらませるために、ペアを作って対話する活動を通して、うなずいたり共感する言葉を言ったりしながら聞くことをめあてとしたい。1学期の学習の中で、相手の目を見て話を聞くことは身につけてきているが、うなずいたり、共感する言葉を言いながら聞いたりすることはまだできていない。そこで、モデルを通して、相手の話に反応したり、共感したりしながら聞く聞き方に気付かせたい。

ここでのモデル提示は2つある。

**モデル提示1**は、ペアの練習の仕方が分かる3年生の子どもの演示によるモデルビデオである。友達の話に対して聞き手が、相手の目を見てしっかり聞き、うなずいたり、「なるほど」や「へえ、いいねえ」などの共感する言葉を言ったりしながら聞くことができるようになることをねらいとしている。その様子をビデオで視聴したあと、聞き手の様子で気づいたことを子どもたちに出させ、話し手の言葉に反応していたことを確認する。そして、教師を相手にしてうなずいたり、共感する言葉を言ったりする練習をする。その後、ペアになって対話をし、目を見て話を聞くとともに、反応しながら聞く聞き方を身に付けさせたい。

モデル

A：私は空を自由にとべるものがほしいな。  
B：へえ、いいねえ。  
A：行きたいところに行けるんだよ。  
B：おもしろそう。

**モデル提示2**は、めあてに沿って対話することができている子どものペアによるモデル提示である。子どもたちの実態を見ながら、①相手の目を見ながら聞いている②うなずきながら聞いている③共感する言葉を言いながら聞いているペアをモデルとして演示させることで、聞き手が反応しながら聞くことで話し手の話す意欲が増し、話の内容が膨らんでいくことにも気付かせたい。

### 8 準備

- 教師 よいモデルのビデオ きらきらカード2
- 子ども 前時までに書いたワークシート

## 9 本時の展開

主な学習活動	主な支援と留意点
1 前時を想起する。 2 学習のめあてを確認する。	○ 「あったらいいな」と思うものと、その理由が全員言えるようになったことを確認する。 ○ 本時は自分の考えをふくらませるために友達とのひみつどうぐのいいところを聞く必要感に気付かせて学習のめあてとして意識づける。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             めあて              友だちのひみつどうぐのいいところを見つけながら聞こう。           </div>	
3 前時に2人で対話した時の様子を思い出し、どんな聞き方をすればいいかを考える。 (1) どんな聞き方をすればいいか考え、出し合う。 (2) モデルのビデオを見て、どんなところがいいかを見つける。 ・うなずいている。 ・いいねえ、へえ～、おもしろいなどの返事をしている。 ・目を見て聞いている。 (3) 教師が話したことに対して、うなずいたり、共感する言葉を言ったりする練習をする。 4 ペアになって対話をする。 (1) 一人2分で自分の話をし、その後交替する。 (2) 上手な対話ができているペアによる演示によるモデル提示を見て、どんなところがよいかを確認する。 (3) 他の相手と交替し、あと2回行う。 5 自分達の話し合いについて振り返る。 6 次時の活動について知る。	○ 前時までの活動を想起し、どんな聞き方をしたらよいか考えさせる。 ○ 3年生の子どもたちが2人組で対話している様子のビデオを子どもに見せる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>モデル①</b>            ・しっかり目を見て聞いている。            ・うなずきながら聞いている。            ・「へえ、それいいねえ。」            ・「わあ、おもしろいね。」         </div> ○ 教師が「ひみつどうぐ」の話をし、全員それぞれでうなずいたり、共感する言葉を言ったりする練習をさせる。 T：わたしがあったらいいなと思うものは、空を飛べるものです。 C：へえー。 C：いいなあ。 C：それ、いいね。 ○ 対話をする時は向かい合ってすることを伝える。 ○ 必ずうなずきながら聞き、共感する言葉を一回は言うことを伝える。 ○ うなずいたり共感の言葉を言ったりすることができているペアの演示をモデルとする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>モデル②</b>            ・うなずきながら聞いている。            ・共感する言葉を言っている。         </div> ○ 時間を、一人2分以内と決め、一人が終わったら交替する。そして、次の相手と交替させる。 ○ きらきらカード2に記入させる。 ・うなずいたり、返事したりしながら聞けたかどうか自己評価させる。 ○ 話し手はどんな気持ちだったかを発表させる。 ○ もっとくわしいお話ができるためにはどんな対話をすればいいか考えることを伝える。

## 5 本時 (6 / 14)

### 6 本時の目標

- ペアでの対話を通して、質問に答えることにより、自分が考えた「ひみつどうぐ」をくわしくすることができる。
- モデルを見て、よりよい対話の仕方を理解し、相手の話を受け、質問することができる。

### 7 本時指導の考え方

本時は「ひみつどうぐ」をくわしくしていくために、ペアでの対話を通して、自分が考えたことを話したり、友達の話を聞いて質問をしたりすることを目標としている。

前時まで子どもたちは、ペアで対話することにより、「ひみつどうぐ」と、ほしい理由を話せるようになっている。また、友達の話に反応しながら聞く練習をし、うなずいたり共感したりしながら話を聞くことができるようになっている。しかし、まだ質問などはうまくできず、対話の広がりは見られないことが考えられる。

そこで本時は、ペアの対話の中で友達に質問する活動を通して、友達の話をしっかり聞き、分からないことを質問することを目標としたい。また、質問に答えることで自分の話したい内容がよりくわしいものになっていくことを実感させたい。しかし、友達の話を聞いて、分からないところを質問する経験が少ないため、対話はなかなか進まないことが考えられる。そこで、モデルを使って、対話の仕方を学ばせたい。

ここでのモデル提示は2つある。

**モデル提示1**は、友達の話に対して質問をし、それに答えている様子が分かる、3年生の子どもの演示によるモデルビデオである。聞き手は、話を聞いた後質問をするためには友達の話をよく聞く必要があり、話し手は、質問に答えることで自分のひみつどうぐがよりくわしくなっていくことに気付かせたい。

モデル

A：わたしは、空を自由に飛べるものがほしいなあ。  
B：へえ、いいねえ。それは、どんな形？  
A：羽の形。  
B：どこにつけるの？  
A：背中につけたらいいかな。  
B：どんな大きさ？  
A：そうだなあ。手の長さくらい大きさがいいかなあ。

その後ペアになって対話をする。対話では、前時に学習した、共感した聞き方も黒板に掲示し、意識させながら進めていく。質問をすることがなかなかできない子どもたちに対しては、「質問カード」を持たせ、どんなことを質問すればいいか、ヒントを与える。質問によってくわしくなった内容については、付箋紙に書いてワークシートに貼らせる。付箋紙を貼ることによって内容がくわしくなっていることを実感させ、次の意欲にもつなげたい。

**モデル提示2**は、ペアの対話を繰り返す中で、内容に沿った質問ができ、話し手もきちんとその質問に答えることができているペアをモデルとしてみんなに見せ、具体的なイメージをもたせるとともに、自分たちももっと上手になりたい、という意欲をもたせたい。

### 8 準備

- 教師 モデルビデオ 質問名人カード きらきらカード3
- 子ども 前時まで書いたワークシート 付箋紙

## 9 本時の展開

主な学習活動	主な支援と留意点
<p>1 前時を想起する。</p> <p>2 もっと「ひみつどうぐ」の内容がくわしいものになるにはどうしたらいいのかを考える。</p> <p>(1) くわしいものになるための考えを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと質問したらいい。</li> <li>・一緒に考えたらいい。</li> </ul> <p>(2) モデルのビデオを見て、いい対話の仕方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問をしている。</li> <li>・質問されたら、必ず答えている。</li> </ul> <p>3 学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>めあて 友だちの話を聞いて、しつもんをしよう。</p> </div>	<p>○ 前時に友達の話をつなぐいたり返事をしたりしながら聞いたことを思い出させる。</p> <p>○ 対話を繰り返し、友達の話の内容が分かったので、もっと話がくわしくなるにはどうしたらいいのかを考えさせる。</p> <p>○ 子どもたちからはなかなか考えが出ないことが予想されるので、あまりふくらませず、すぐにモデルを見せる。その際、話し手ではなく、聞き手の様子に注意してモデルを見るように知らせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> <p><b>モデル①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかり目を見て聞いている。</li> <li>・うなずいたり、共感する言葉を言ったりしている。</li> <li>・質問をしている。</li> <li>・質問に対して必ず答えている。</li> </ul> <p>※ひみつどうぐがくわしくなっている。</p> </div>
<p>4 ペアで対話をする。</p> <p>(1) 前時と同じペアになって対話を始める。必ず1回は質問を入れるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人2分以内で話し、その後交替をする。</li> <li>・質問に答えたことで詳しくなったことがあったら、付箋紙に書いてワークシートに貼っていく。</li> </ul> <p>(2) 付箋紙が増えているペアがみんなの前で対話をし、どんな質問をしているか、確認する。</p> <p>「どんな」「どこに」 「どうやって」「どのくらい」</p> <p>(3) 相手を替えて3回対話する。</p> <p>5 学習の振り返りをする。</p> <p>6 次時の学習について知る。</p>	<p>○ 前時まで学習した、話の聞き方のポイントは、黒板に掲示し、見て確認できるようにしておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の目を見て聞く。</li> <li>・うなずきながら聞く。</li> <li>・返事をする。</li> </ul> <p>○ 質問がなかなかできない子どもには「しつもんカード」を持たせ、どんなことを質問すればよいかヒントを与える。</p> <p>○ 付箋紙に書くときには、メモ程度の書き方をするように指導する。</p> <p>○ 付箋紙が増えているペアを見つけ、みんなの前で対話してもらおう。どんな質問の仕方をしているか見せることで、対話のイメージをつかませ、意欲をもたせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> <p><b>モデル②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ひみつどうぐ」の内容がくわしくなるような質問をしている。</li> <li>・質問に答えている。</li> </ul> </div> <p>○ 「きらきらカード3」に今日の振り返りを書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問ができたかどうかについて、振り返らせる。</li> </ul> <p>○ 次の時間には対話する相手を替えて、対話することを伝える。そして、もっとくわしく話したり、質問に答えたりすることをめあてとすることを伝える。</p>

## 5 本時 (8/14)

### 6 本時の目標

- ペアでの対話を通して、相手の話を聞いて感想を言ったり、アドバイスをしたりすることができる。
- 話の内容をよりくわしくするために、モデルを見て、相手を受け入れる感想の言い方やアドバイスの仕方を理解し、対話の中で使うことができる。

### 7 本時指導の考え方

本時は、相手が話したことについて感想を言ったり、アドバイスをしたりすることができるようになることを目標としている。その際に、よい感想の言い方やアドバイスの仕方のモデルビデオを視聴することで感想やアドバイスの言い方を知らせる。また、相手を替えて対話をする時間を多くとることで、「ひみつどうぐ」の内容をよりくわしくさせていきたい。

前時までに子どもたちは、ペアで対話をし、分からなかったことは質問し、「ひみつどうぐ」の内容をくわしくすることはできている。しかし、質問をし、それに答えるだけであり、話し手が気持ちよく話せる、もっと話したいと思うような聞き方はあまりできていない。

そこで本時は、感想やアドバイスの入った対話のモデルを通して、相手を受け入れる感想や、もっと内容がよくなるためのアドバイスを対話の中に入れることで、より楽しい対話ができることに気付くことをめざしたい。

ここでのモデル提示は2つある。

**モデル提示1**は、聞き手が、話を聞いた後に感想を言ったりアドバイスをしたりしている、3年生の子どもによるモデルビデオである。感想を言ったりアドバイスを入れたりすることで、話す意欲が増したり内容がくわしくなったりして、対話が楽しくなることに気付かせることをねらいとしている。そのため、モデル視聴のあと、相手が聞いてうれしくなるような感想の言い方であることに気付かせたい。

モデル

A: 1年中りんごがなっている木があるといいな。

B: いいね。りんごだけじゃなくてみかんやバナナもあるといいんじゃないかな。

A: それじゃあ、いろいろな種類の実がなる木にしようかな。

B: そんな木があると楽しいね!

**モデル提示2**は、感想やアドバイスを言うことができている、子どものペアのモデルである。ペアで対話している子どもの実態を見ながら、①相手が気持ちよくなるような感想が言えている②内容がよりくわしくなるようなアドバイスが言えているペアに、みんなの前で演習させ、気持ちのよい、楽しい対話の仕方についての具体的なイメージを持たせ、他の子どもたちがさらに意欲がもてるようになることをねらいとしている。楽しい対話ができることで、より内容もくわしいものになっていくことができるであろうと考える。

### 8 準備

- 教師 よいモデルのビデオ きらきらカード5
- 子ども 前時までのワークシート

## 9 本時の展開

主な学習活動	主な支援と留意点
<p>1 前時を想起する。</p> <p>2 学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて 友だちの話を聞いて、かんそうやアドバイスを言おう。</p> </div>	<p>○ 前時までのペアでの話し合いを想起させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・反応しながら聞く。</li> <li>・分からなかったことは質問する。</li> </ul> <p>○ 相手の「ひみつどうぐ」がくわしくなるためには、感想やアドバイスを言ってあげるとよいことに気付かせ、学習のめあてとして意識させる。</p>
<p>3 モデルビデオを視聴して、感想やアドバイスの言い方を知る。</p> <p>(1) 感想やアドバイスとはどういったものか出し合う。</p> <p>(2) モデルのビデオを視聴して、どんなところがいいかを見つける。</p> <p>4 ペアで対話する。</p> <p>(1) 反応・質問に加えて、感想やアドバイスを言うことに気をつけてペアで話し合う。</p> <p>(2) 感想やアドバイスを言い合っているペアがみんなの前で対話し、感想やアドバイスの言い方を再度確認する。</p> <p>(3) 相手を替えて話し合い、感想やアドバイスを言い合う。</p> <p>5 学習のふり返しをする。</p> <p>(1) 言われてうれしかったことを発表する。</p> <p>(2) 「きらきらカード5」に自己評価を書く。</p> <p>6 次時の学習について知る。</p>	<p>○ 3年生のモデルビデオを視聴させ、聞いたことに対して自分が感想やアドバイスを言うということを理解させる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>モデル①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想は、相手が気持ちいいな、うれしいな、と思うことを言う。 「そんな〇〇いいね。」 「ぼくもほしいなあ。」</li> <li>・内容がよりくわしくなるようなアドバイスを言う。 「こうしたらどうかな。」 「こうなるといいな。」</li> </ul> </div> <p>○ 必ず一つは感想やアドバイスを言うことができるように助言する。</p> <p>○ 思ったことを言うときには、そのまま言うのではなく話し手が話しやすい気持ちになれるようなことを言うことがよいことに気づかせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>モデル②</p> <p>感想やアドバイスを言い合うことができるペアによる演示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①相手の言ったことを受けてうれしいと思えるような感想を言っている。</li> <li>②内容がくわしくなるアドバイスを言っている。</li> </ul> </div> <p>○ さらに相手を替えて話し合わせる。</p> <p>○ 「きらきらカード5」に今日の振り返りを書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手に、感想を言ったりアドバイスをしたりすることができたか自己評価する。</li> </ul> <p>○ くわしくなった「ひみつどうぐ」を整理したり絵で表したりして発表の準備をすることを伝え、次時への意欲をもたせる。</p>

10 モデル

時	こんなモデル	こういう目的で	こんな内容で	着目させる言葉・態度
4	①教師による演示のモデル 「ひみつどうぐ」とほしい理由の言い方	「ひみつどうぐ」とほしい理由がはっきり言えるようにするため。	Aわたしは、(空を自由に飛べるもの)があったらいいと思います。  B(雲の上を散歩したら楽しい)からです。	A「ひみつどうぐ」  Bほしい理由
	②よくできている子どもたちによる演示のモデル	分かりやすく話している様子を見せて、他の子どもたちに、意欲をもたせるため。	①言葉がはっきりしていて、相手が聞き取りやすい言い方ができているモデル ②「ひみつどうぐ」とほしい理由がはっきり言えて、相手に分かりやすく話しているモデル。	①声の大きさ、口形に気を付けて話す。  ②「ひみつどうぐ」とほしい理由が言える。
5	①よい聞き方(反応)をしているモデルのビデオ(3年生児童)	どんな聞き方がいいか、気付かせるため。	①しっかり目を見て聞いているモデル。 ②うなずきながら聞いているモデル。 ③共感的な言葉を言っているモデル。	①目を見ています。  ②うなずいている。  ③「へえ、それいいねえ」 「わあ、おもしろそう」
	②よい聞き方(反応)ができている子どもたちによる演示のモデル	よい聞き方(反応)ができている様子を見せて、他の子どもたちに意欲をもたせるため。	よい聞き方(反応)ができている二人組のモデル ① しっかり目を見て聞いている。 ② うなずきながら聞いている。 ③ 共感的な言葉を言っている。	①目を見ています。 ②うなずいている。 ③「へえ、それいいねえ」 「わあ、おもしろそう」
6	①よい対話(質問)をしているビデオ(3年生児童)	質問の仕方を知るため。	Aわたしは、空を自由に飛べるものがほしいなあ。 Bへえ、いいねえ。それは、 <u>どんな形?</u> A羽の形だよ。 B <u>どこにつけるの?</u> A背中につけたらいいかな。 B <u>どんな大きさ?</u> Aそうだなあ。手の長さくらい大きさがいいかなあ。	○ 質問の仕方 「どんな・・・」 「どのくらい・・・」 「どこに・・・」 「どうやって・・・」 ○ 聞かれたことに対して答えている。
	②よい対話(質問)ができている子どもたちによる演示のモデル	よい対話(質問)ができている様子を見せて、他の子どもたちに意欲をもたせるため。	付箋紙が増えているペアのモデル 「どんな」 「どこに」 「どうやって」 「どのくらい」 「いくつ」	○ いろいろな質問ができる。 ○ 質問に合った答え方ができる。

7	①よい対話（答えに対して、質問をつなげている）をしている音声（CD）でのモデル	答えを受けて、更に質問をつなげていく対話の仕方を知るため。	A どうやって飛ぶの。 B 背中に魔法の羽を付けて飛ぶんだ。 A 魔法の羽。それは、どんな形をしているの。	A 分からないことを聞く。 B 具体的に答える。  A 答えに使われている言葉を使って、更に分からないことを聞く。
	②よい対話（答えに対して、質問をつなげている）をしている子どもたちによる演示のモデル	よい対話（答えに対して、質問をつなげている）ができてきている様子を見せて、他の子どもたちに意欲をもたせるため。	友達の答えを受けて、更に質問をつなげているペアのモデル A その羽は、ハンカチみたいに小さくたためるの？ B そうだよ。どこかに飛んでいきたい時には、広げるんだ。 A いいね。Bさんはどこに行きたいの？	A 分からないことを聞く。 B 聞かれたことに答える。  A 答えに使われている言葉を使って、更に分からないことを聞く。
8	①よい対話（アドバイスや感想を言っている）をしているモデルのビデオ	相手が話したことに、どんな感想やアドバイスを言えればいいのかわかるため。	A 一年中りんごがなっている木があるといいな。 B いいね。りんごだけでなく、みかんやバナナもあるといいんじゃないかな。 A それじゃあ、いろいろなくだものの実がなる木にしようかな。 B そんな木があると楽しいね！	○ 相手の言ったことを受けて感想を言う。 ○ アドバイスができる。
	②よい対話（アドバイスや感想を言っている）をしている子どもたちによる演示のモデル	よい対話（アドバイスや感想を言っている）ができてきている様子を見せて、他の子どもたちに意欲をもたせるため。	相手が話したことを受けて、感想やアドバイスを言うことができるモデル ① 感想を言うことができる。 ② アドバイスを言うことができる。	① 相手が聞いて嬉しくなるような感想を言う。 ② 内容がよくなるようなアドバイスができる。
10	よい発表のモデルビデオ	発表の仕方を知るため。	① 大事なことを落とさずに、順序よく話しているモデル ② 声の大きさや話す速さ、口形や姿勢、間の取り方に気を付けて話しているモデル ③ 相手を見て話しているモデル ④ 絵を指しながら話しているモデル	① あっというものの、どんなものか、こんなことができる、の順で話す。 ② みんなに聞こえる声で、口形、姿勢に気を付けて話す。 ③ 相手を見て話す。 ④ 絵を指して説明する。